

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	1	飼い犬に手をかまれる	21
	2	犬も食わない(食わぬ)	22

問一 3 犬に論語

問二	ア	24
問三	エ	25
問四	イ	26
問五	イ	27

問六			28
い	を	フ	29
出	通	レ	30
に	る	ン	31
ぬ	こ	チ	
り	と	ブ	
か	で	ル	
え	、	ド	
ら	受	ツ	
れ	験	グ	
た	に	と	
か	落	い	
ら	ち	っ	
。	た	し	
	こ	よ	
	と	に	
	を	中	
	べ	学	
	つ	の	
	の	ま	
	の	え	
	思		

問七			32
方	分	母	33
に	に	が	34
変	と	父	35
え	っ	を	
よ	て	ナ	
う	自	オ	
と	然	と	
決	だ	呼	
意	と	ん	
す	感	で	
る	じ	い	
気	る	た	
持	父	よ	
ち	さ	う	
。	ん	に	
	と	、	
	い	い	
	う	ま	
	呼	の	
	び	自	

問八		36
い	父	37
ま	さ	38
を	ん	39
一	や	
生	フ	
懸	レ	
命	ン	
生	チ	
き	ブ	
よ	ル	
う	ド	
と	ツ	
い	グ	
う	と	
気	い	
持	っ	
ち	し	
。	よ	
	に	
	、	

2

問一	1	イ	40
	2	エ	41
	3	オ	42
問二	ある	程度	43
問三	エ		44

3

①	統 治	問九				問七	問六			問五	問四			
		の	お	と	童	私	が	よ	在	知	ウ	う	化	は
②	連 綿	約	よ	、	が	の	理	く	に	識		49	に	し
		百	そ	リ	通	通	解	な	使	や	な	、	め	
③	横 暴	倍	四	ヒ	っ	っ	で	る	え	情	る	実	て	
		で	万	テ	て	て	き	こ	る	報	と	感	見	
④	険	あ	人	ン	い	い	ま	と	よ	を	い	を	る	
		る	程	シ	ま	る	す	と	う	整	う	持	未	
⑤	群	こ	度	ユ	す	学	。	に	理	利	っ	知		
		と	と	タ	。	校	問八	な	が	点	て	の		
⑥	群	が	い	イ	こ	に	ア	り	で	。	と	事		
		分	う	ン	れ	は	オ	、	き	。	ら	象		
⑦	群	か	数	公	を	、	勉	て	。	え	を			
		り	字	国	基	お	強	、	必	る	お			
⑧	群	ま	は	の	準	よ	や	必	要	こ	お			
		す	、	総	に	そ	事	な	と	が	ぎ			
⑨	群	。	全	人	し	四	の	と	き	が	っ			
		校	校	口	て	百	効	き	に	で	ぱ			
⑩	群	見	で	考	人	の	率	に	。	き	に			
		童	あ	え	の	見	が	自	。	る	定			
⑪	群	数	る	る	見	。	。	。	。	よ	量			

(配点) ①〔問一〕各4点、〔問六・七〕各12点、〔問八〕8点、他各5点
 ②〔問一〕各3点、〔問四・六〕12点、〔問八〕8点、〔問九〕15点、他各5点 } 計150点
 ③各2点

【解説】

1 西田俊也の「ハルと歩いた」(徳間書店) から出題しました。

小さいころに亡くなった母親の故郷である奈良に東京から引越してきた主人公の陽太。ふとしたきっかけで預かることになったフレンチブルドッグ、父親のナオとともに様々な経験をしていきます。本文は、ナオが陽太を誘い、母親との思い出のあるバス停付近をいっしょに歩く場面です。

問一 A1 知識

「犬」を使った慣用句・ことわざについての問題です。

1「寝首をかかれる」、2「猫もまたいで通る」、3「猫に小判・豚に真珠」などの類義語も合わせて覚えておきましょう。

問二 B1 具体・抽象 置換 比較

「もう一人の人間の人生の上を通過」する、「自分がそこに残した痕跡を忘れる」がそれぞれどのような意味かを考え、対応する表現をふくむ選択肢を選びましょう。「もう一人の人間」は自分自身を受けての表現だと考えられます。したがって「他人の人生と関係を持つ」という意味になるでしょう。「自分がそこに残した痕跡」とは、関係した他人の人生に自分が何らかの影響をあたえたことを指すものととらえられます。したがって、アが正解となります。

問三 B1 具体・抽象 理由 比較

一つ前の文「人間なら、大人になるまえに死んでしまうようなものだ。」に注目します。犬は長くて十五年くらいしか生きないことを散歩中に話しかけてきたおばさんから聞いて、陽太

の考えたことです。いまの自分にとっては長く感じるけれど、客観的に考えればそう長くはない犬の寿命に対して、陽太は同情しているのです。

問四 B1 具体・抽象 置換 関係づけ

「見ならわんとあかん」という表現から、おばさんが犬のどんなところをプラスにとらえているかを考えます。直前の「いっただっていまだけを、力のかぎり生きてるのよ。」が参考になるでしょう。これと同じ意味で、に入る言葉を探しましょう。すると、——線③の十一行後に「(犬はいつも) いまだけを懸命に生きている」という表現が見つかります。

問五 B1 具体・抽象 推論 比較

親戚の人たちの発言に対して、陽太がどのように考えているかに注目しながら本文を読み進めましょう。選択肢の表現の正誤を判定する要素は必ず本文にあるはずなので、「こうかもしれない」というあやふやな判断をしないようにしていねいに読むことが大切です。——線④の五行後「母さんの命が短かった」と親戚の人がいうのはしかたない」や、六行後「でも短い命でも、母さんの人生はいいものだったと思いたかった」を根拠にすると、イが正解となります。特に、陽太は親戚の人たちの発言に反発しているわけではない、という点を読み間違えないように注意しましょう。

問六 B2 理由 推論

「くやしかった自分はいなかった」というのは、くやしいと感じた気持ちを自分なりに受け止め、消化することができた、

という意味です。直後のナオの発言では、陽太の母(ナオ)にとっては妻)の死を受け止め、消化するきっかけとして「べつの思い出にぬりかえられた」ことが挙げられています。これと同じように、陽太にとつては「受験に失敗した」という記憶が、フレンチブルとともに学校のまえを歩く経験をしたことでべつの思い出にぬりかえられ、くやしい気持ちを消化できたのだと考えられます。これらの要素を盛りこんで解答を作りましょう。

①受験に失敗したことから別の思い出にぬりかえられた内容が書かれているか、②①に過不足がないか、③表記や表現が正しいかを見えています。

問七

B3 推論 理由

陽太の「やつぱり」は母さんが父さんを「ナオ」と呼んでいたという事実に対しての感想です。母さんは自分にとって自然な呼び方として父さんのことを「ナオ」と呼んでいました。これまでは母さんと同じように父さんのことを「ナオ」と呼んでいた陽太でしたが、いまは「父さん」と呼ぶのが自然だと思いはじめています。以上のことから、「やつぱり」は「母さんがナオと呼んでいたように、自分にとって自然だと感じる呼び方で父さんと呼ぶようにしよう」という陽太の決意だと読み取ることでできます。①自分にとつて自然だと感じる呼び方で父さんと呼ぶという内容が書かれているか、②①に過不足がないか、③表記や表現が正しいかを見えています。

問八

B2 推論 具体・抽象 置換

「ぼくら」は、陽太とナオ、そしてフレンチブルドッグを指しているものと考えられます。「むれ」はふつう動物の集団を

指しますが、「ともに生活する集団」の比喩であるにとらえることができるでしょう。したがって、これからも一緒に生きていく家族でいようという気持ちが読み取れます。①父さんとフレンチブルドッグと一緒に生きていこうという内容が書かれているか、②①に過不足がないか、③表記や表現が正しいかを中心に見えています。

2

畑村洋太郎の「考える力をつける本」(講談社+α新書)から出題しました。

物事を効率よく考えるためにはどうすればよいかということや、すぐに答えが出ないような問題に対してどのように向き合えばよいかということについて論じた文章です。「数値をとまなつた自分なりの尺度」で世の中のことをとらえようとするのが大切だ、という筆者のメッセージを読み取りましょう。

問一

A2 知識 関係づけ

接続語の問題です。なんとなく選択肢を当てはめていつて答えを選ぶのではなく、前後の内容同士がどのように関係しているかをとらえ、ふさわしいものを選ぶようにしましょう。

1 直前の内容と直後の内容を比べると、ともに「〜かどうか」という形で終わっていることが分かります。複数の内容を並べる働き「イ」が入ります。

2 直前には、日本人がお米だけで生きていくなら年間およそ二〇〇〇万トンが必要であることが書かれています。これに対し直後では、日本の米の生産量がその半分以下、年間八〇〇万トン程度であることが書かれています。前の内容から無理なく類推できる内容を裏切る内容になっていることか

ら、逆接を表す働きのエ「しかし」が入ります。

3 直前では、知識や情報を整理しておく「仮想の引き出し」について、それらが何段かに分かれているという内容が書かれています。これに対して直後では、それぞれの段にどのような領域の知識や情報が入るかという具体的な話をしています。したがって、具体例を示す働きのオ「たとえば」が入ります。

問二 B1 具体・抽象

本文中から設問の条件に当てはまる表現を探す問題です。まずは素直に「フェルミ推定を行うには〇〇が必要です」という表現を探してみましょう。《1》の三行後「こうした推定を行うためには、必要になります」の部分が条件を満たしています。

問三 B1 具体・抽象 比較

「億や兆といった額」が分かりにくいのは、ふだん使うことのない単位であるため実感が持てないからです。筆者はそのような金額の値ごろ感をつかむために、自分が関心を持っているものや知っているものの金額を尺度とすることを提案しています。したがって、エが正解となります。

問四 B2 具体・抽象 置換 推論

直後の内容から「自分なりの尺度」＝「物差し」であることが読み取れます。この物差しを使ってできることは、未知の事象について定量化を行い、おおよっぱなことをつかんで、さらに深い理解に進むための突破口を開くことです。「利点」とい

う表現から、「自分なりの尺度」を持つことによって可能になる良い点を探るという意識で本文を確認していきましょう。

①未知の事象を定量化し、理解しやすくなるという内容が書かれているか、②①に過不足がないか、③表記や表現が正しいかを中心に見ています。

問五 B1 関係づけ 比較

「最も手軽」という表現から、日常生活においてよく使うもの、あるいは使いやすいものが④に入ることが分かります。「定量化の物差し」は三行前の「自分なりの尺度」と同じものを指していますから、他の人とは関係なく自分にとって使いやすいものに当てはまるのはどれか、と考えましょう。

問六 B2 具体・抽象 置換 推論

三つ前の段落から述べられている内容をまとめます。「知識は必要な時に自在に使える必要がある」ということ、「引き出しやすくなるために仮想の引き出しを使う」ということ、「効率をよくすることにつながる」ということを盛りこんでまとめましょう。①知識や情報を整理ができて必要ときに自在に使えるという内容が書かれているか、②①に過不足がないか、③表記や表現が正しいかを中心に見ています。

問七 B1 関係づけ

ぬけている文をもとにもどす問題です。このような問題では、いきなり本文を読んで探すのではなく、ぬけている文自体から前後にどのような内容が来るはずか、というヒントをしつかり見つけ出してから探すようにしましょう。「そこ」という指示

語に注目し、さまざまな方向に広げていける、すなわちその後の思考のスタート地点になるという特徴を合わせて考えると、線⑤の九行前に「よくわからない対象に対しても、その場である程度のこと理解できます」が見つかります。

問八

B1 理由 具体・抽象 比較

本文の内容と一致する選択肢を選ぶ問題です。本文の表現と選択肢内容の対応を考え、実際に本文と照らし合わせながら正誤を判定していきます。イ「他の人と意見が食い違った場合に相手を説得しやすくなる」、ウ「精密な数値の物差し、複数持っておく」、エ「知識を選別して身につけることで」がそれぞれ誤っています。また、アの内容は《1》の次の段落、オの内容は、最後から六つ目の段落の内容と一致していません。

問九

C1 具体・抽象 推論 理由

「自分なりの尺度」はそれぞれの人の身近にある数字です。正確な数値を求めることにこだわらなくても構いませんから、自分にとって理解しやすい数字を思いうかべ、リヒテンシュタイン公国の総人口であるおよそ四万人という数字と比較しましょう。①リヒテンシュタイン公国の総人口と比較できる内容が書かれているか、②①に過不足がないか、③表記や表現が正しいかを中心に見ています。